



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サブカルサブリ第3回 : 都県が絶望した沼の町
Author(s)	山村, 高淑
Description	埼玉新聞2010年6月27日版、特集「サイタマニア」、p.2
Citation	埼玉新聞
Issue Date	2010-06-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53071
Type	article
File Information	20100627Saitamania subcul suppl No.03.pdf



山村高淑の サブカル サプリ



アニメや漫画の舞台地が多いサブカル王国・埼玉。その魅力を「アニメツーリズム」の専門家、山村高淑氏が紹介する。

こんにちは。先日学生に「先生、最近アニメの話ばかりですね。世界遺産の研究はもうやらないのですか？絶望しました！」と言われてしまった山村です。あ、いえ、「きつちり」やってます(笑)。

で、絶望先生と言えば(話の展開が強引ですみません!)久米田康治先生。久米田先生の名作(迷作?)と言えば「さよなら絶望先生」のプロトタイプとでも言うべき「かつてに改蔵」。週刊少年サンデーに1998年から2004年まで連載された、きわどい表現、風刺、小ネタ満載の不条理ギャグ漫画です。

実はこの作品の舞台「とらうま町」。「さいたま」と練馬区の県境にある自治区(コミック26巻、p.137)という架空の町です。さしあたり現実の地図で言つと、新座、朝霞、和光市あたりの県境でしょう。かつては沼で、長い間、埼玉と練馬区が押しつけ合った土地、今はその上に町が出来ている、との設定です。(ただし連載当初の舞台は与野

都県が絶望した沼の町

本町。例えば、改蔵の後輩又カタはJリーグ「ボンソワレ与野本町」に所属。1巻、p.98)。

埼玉県内の具体的な町や場所が舞台になった作品はたくさんあるのですが、こういう不思議な舞台設定は珍しいですよ。埼玉にゆかりのある(?)作品としては異彩を放ってます。正直、わけのわからない舞台設定だなあ、と私も読んだ当時は思いました。しかし!なんと最終回で、その舞台設定の理由が意外な形で明らかになるのです!! 衝撃です。

これ以上は言わないでおきますね: 私にとっては、ギャグ漫画の中で最も衝撃的な最終回。傑作であり問題作。竹内力・哀川翔主演の映画「DEAD OR ALIVE 犯罪者」のラストシーンに勝るとも劣らぬ、忘れられない終わり方(笑)。ブラックジョークが笑って許せて、表現の自由にも寛容な方は、是非ご一読を!

●プロフィール

やまむら・たかよし: 北海道大学観光学高等研究センター准教授。
埼玉県アニメツーリズム検討委員会座長。